

会 議 録

会議名		令和6年度第2回愛川町地域公共交通協議会
開催日時		令和6年10月23日（水）午後2時00分～午後3時20分
開催場所		愛川町役場4階 402・403会議室
出席者	委 員	14人 （別紙のとおり）
	その他	1人 （代理出席）
	事務局	6人 （政策秘書課長 他5人）
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 地域公共交通計画の概要及び現状分析等について (2) 基礎調査の概要について 4 そ の 他 5 閉 会

審 議 経 過

(1 / 6)

※審議の要旨は次のとおり（○は委員の発言、●は事務局の発言）

次第1 開 会

次第2 あいさつ

次第3 議題

（1）地域公共交通計画の概要及び現状分析等について

●（資料1に基づき説明）

○（A委員）愛川町には鉄道が無く、バスやタクシーに頼らないといけない。今後の運転手不足などを考えると、三浦市のライドシェアのような方向性を考えても良いのではないかな。

○（B委員）神奈川版ライドシェアについては、1日平均で4～5回の稼働があり、当初の想定通りで推移している。事故やトラブルは今のところ報告はない。一般の方が運転手となるが、面接のほか、タクシー業者と協力し研修も行っている。また、業務開始前に、遠隔で健康状態の確認も実施している。12月中旬まで実証運行を予定しており、データを蓄積している。愛川町からライドシェアの検討の話があれば情報提供も可能である。

○（C委員）ライドシェアは過疎地で始まったと聞いている。採算性は必要であるが、地域の助け合いの精神が根本にあるのかと思う。料金設定としては、1km200円で設定して、利用した際に商品券がついてくる事例を聞いたことがある。高齢者の方や障がい者の方は家の前まで来ていただく必要があり、過疎化に関係なくライドシェアの導入が必要になるのかと考えている。そうすれば、高齢者の外出機

審 議 経 過

(2 / 6)

会の創出や健康のためにも良いのではないかと思う。ライドシェアの導入を検討する上で所管、管轄はどこになるかも確認したい。

○（D委員）国土交通省の所管となる。町としては政策秘書課が担当し、協議会で協議の上、国土交通省に申請することになるのかと思う。

○（鈴木会長）気を付けていただきたい点として、公共ライドシェアと日本版ライドシェアの2つがある。日本版ライドシェアはタクシーの代わりとなるもの。公共ライドシェアは自家用有償旅客運送という制度として以前よりあったものである。混同したまま議論が進むと整理がつかなくなるので、ライドシェアの検討の可能性が計画で出てくれば、別途、議論できればと考えている。

○（E委員）バス事業の現況として、7月の新札発行に伴い運賃箱の更新が発生している。運賃箱1機の買い替えに200万円程度かかっている。現金を利用される方もいるかと思うが、完全キャッシュレスの流れがあり、運転手の負担軽減や営業所の換金作業を効率化し、バス事業の存続を図っている。現金支払も配慮するが、今後のこういった流れについてご承知いただきたい。

○（F委員）計画策定にあたり、乗務員不足について記載いただいている通りである。町内でも減便等で対応しているが、依然として乗務員が不足している状況である。待遇改善・賃金改善を図っているが非常に厳しい状況で、路線の維持自体も難しいところである。この計画では、どの路線を維持するかといった議論も必要になると考えており、厳しいお話をさせていただくこともあるかもしれない。

○（A委員）乗務員不足や乗客の減少により、採算性が落ちて、路線バスの減便、

撤退が今までの流れである。路線バスが撤退したことで、町内循環バスを公共交通として仕立てる必要があり、その経費の9割を負担する流れとなってしまう。新しい計画では、神奈中さんの基幹路線の路線バスが撤退しないようにする対策を考える必要がある。今までの計画では神奈中さんが撤退した後の対策を考えている。ライドシェアの話もあるが、まずは、神奈中さんの路線バスが撤退されないことを考える必要がある。

○（C委員）全国的になり手が少なく減少しているのは承知しているが、桜台小沢線を経由し海老名に向かう新設のバス路線を皆さん喜んでいると聞いているので、今後もよろしく願いたい。

○（F委員）養成制度もあるので、乗務員不足については、このような場でも、運転手の候補の方などについてご意見をいただきたい。

●計画策定のポイントとして「公共交通を使って支える意識の醸成」を念頭に置きながら計画の策定を考えていく。桜台小沢線の新規路線も町と神奈中で協力し検討していった路線であり、利用促進につながるバス路線についても計画の中で検討していく。

○（G委員）半原・三ヶ木間、三ヶ木・橋本間、鳥居原・橋本間のバスに対して、相模原市や愛川町が補助を出していると思うが、詳細を聞かせてほしい。

●半原と三ヶ木を結ぶ路線は、相模原市と愛川町の協調路線として、距離按分し、補助している。

○（G委員）先々、議論が必要になることだが、例えば、田代地区は中原中学校が

広域避難所となっているが5 k m離れている。半原と田名バスセンターを結ぶ便が通っているが、災害時に公共交通が動くのかといった懸念がある。今年6月に田代の観光バスを利用し、お年寄り・要援護者を40から50世帯輸送する訓練をしてもらったところである。また、車いすでないと動けない人に対しては、愛和の里という施設から車いすで乗れるバスを提供いただき、民生委員の方に運転いただく話をしている。参加いただいた方からは、良い悪いは別として、輸送方法の1つとして認識いただいたが、災害時に路線バスは運行できるのか。

○（鈴木会長）非常時の移動は、一つの大きなテーマではある。地域公共交通計画は必ずしも非常時を想定したものではない。ただ、交通資源をどう活用するかといった観点はもっていてよいのではないかと思う。

○（D委員）生活交通についてはこの場で、皆様と交通資源を活用した移動手段の確保を議論させていただくことになる。町としても高齢化により、非常時の足の確保については重要になると考えており、別途、協議の場を設けて議論をしているところである。災害時の皆様の足の確保の取り組みについては、平行して検討を進めている。

○（A委員）愛川町は小さいのに、中津から半原までバス一本では行けない。中津、半原間を移動する際に箕輪辻での乗り換えは不便である。

○（F委員）乗務員不足があり、新規路線は難しい。大型バスが走るには、20名から30名が乗るところをバスで運行する。一桁の場合は、小さいモビリティで移動することになると考えている。地域公共交通計画を策定する中で、様々な輸送資

審 議 経 過

(5 / 6)

源を組み合わせどう維持するかを、議論することになると考えており、新規路線は難しいと考えている。

○（D委員）桜台小沢線を利用した路線バスは、朝夕2便ずつで走らせている。大塚区は世帯数が伸びており、高齢化率も町の中で一番低い地域である。行政施策として、今後、輸送人員・需要が見込まれる地域に着目し、町で沿線の皆様にアンケートを実施、道路管理者、警察、バス事業者と協議し、実現した経緯がある。同様に半原から国道412号バイパスを通る路線も平成27年に行政施策として新設した路線である。当時の厚木東高校や厚木商業高校へ半原から通う生徒が多く、速達性・採算性も見込めた経緯がある。

○（鈴木会長）新たに付け加えていくことは難しく、今後、限られた資源で何ができるのか、何が最適なのかが今回の計画のベースになる。今ある資源を上手に使って、新たな経路やルートに振り替えるということはあるが、新たなものはものを付け加えていくのは難しく、限られた資源を有効活用して、最適なものを作ることに視点を置いていただきたい。

○（G委員）愛川町も半原・三ヶ木間の系統に対して補助を出しているとのことで、ニーズや経費の問題はあるが、橋本まで循環バスを運行できないか。埼玉では近隣自治体の鉄道駅まで町の循環バスを走らせている町があると聞いている。

○（鈴木会長）今後、計画を作成していくうえで何ができるか議論していくことになるかと思う。資料1についての内容をベースに策定することについて了承いただきたい。

(2) 基礎調査の概要について

● (資料2に基づき説明)

○ (E委員) 1点目は設問項目について、性別も聞いて欲しい。男性女性で考え方や目的は違う。2点目は、聞き取り調査で、実施の期間や曜日いつになるか。観光も対象となるなら、土日や季節なども大切な要素となるのでご考慮いただきたい。

3点目は、関係団体ヒアリングで、駅から会社等への送迎バスを実施している方々に、自家用なのか、貸切バスや特定バスかといった点、隣の会社との共同使用の意向があるかなども調査いただけると、効率的な輸送の検討や企業側にも共同輸送を知ってもらうきっかけとなるかと思う。

●性別もお聞きする予定である。聞き取り調査については平日を予定し、日常的な交通の状況についての調査を考えている。送迎バスについては、指摘いただいた内容を踏まえ検討・反映させていただく。

○ (鈴木会長) バス利用者ヒアリングは、調査をする日は終日予定であるか。時間帯によって、ニーズ等違いがあるはず、ニーズを比較しながら、計画に反映する必要もあるかと思う。

●基本的には終日調査を予定しているが、朝の通勤時間帯は、時間に余裕がなく回答に応じていただけない可能性もある。交通事業者と協議し、調査方法については工夫をしながら実施したいと考えている。

次第4 その他

次第5 閉会

令和6年度第2回愛川町地域公共交通協議会 出席者名簿

No.	選 出 区 分	氏 名	団体・役職等	出欠
1	学識経験者	鈴木 文彦	交通ジャーナリスト 日本バス文化保存振興委員会理事長	
2	公共交通事業者等	小堤 健司	一般社団法人神奈川県バス協会常務理事	
3	公共交通事業者等	小嶋 光行	一般社団法人神奈川県タクシー協会理事	欠
4	公共交通事業者等	橋山 英人	神奈川中央交通株式会社運輸計画部生活交通担当課長	
5	道路管理者	磯辺 隆行	厚木土木事務所工務部長	
6	公安委員会	千葉 正広	厚木警察署交通第一課巡查部長	
7	地方運輸局	宿谷 幸利	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	欠
8	一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	河口 健	神奈川県交通運輸産業労働組合協議会幹事	
9	地域公共交通の利用者	古座野 茂夫	愛川町区長会会長	
10	地域公共交通の利用者	大泉 哲郎	愛川町中学校校長会会長	欠
11	地域公共交通の利用者	馬場 洋一郎	愛甲商工会副会長	
12	地域公共交通の利用者	荒井 英明	神奈川県内陸工業団地協同組合専務理事	
13	地域公共交通の利用者	馬場 紀光	県央愛川農業協同組合代表理事組合長	
14	地域公共交通の利用者	足立原 善司	愛川町老人クラブ連合会副会長	
15	地域公共交通の利用者	岡部 真由美	愛川町身体障害者福祉協会副会長	欠
16	地域公共交通の利用者	齋藤 光枝	愛川町婦人団体連絡協議会理事	
17	関係する行政機関	中津川 宗尉	神奈川県県土整備局都市部交通政策課副課長	
18	計画を策定しようとする市町村	小川 浩幸	愛川町総務部長	